

**2010年上半期および第2四半期業績発表**

2010年8月18日

**業績の力強い改善 - 2010年の展望を再度上方修正**

- 記録的な EBITDA および EBIT
- 純利益の大きな改善
- キャッシュフローの更なる増大
- 2010年度の展望: 売上高、EBITDA と EBIT における大きな増加が期待される。

内藤 吾朗  
コミュニケーションズ  
T +81-3-5323-7391  
F +81-3-5323-7399  
goro.naito@evonik.com

エボニック インダストリーズ(本社:ドイツ・エッセン)は去る8月11日に2010年上半期および第2四半期の業績発表をおこない、取締役会長のクラウス・エンゲルは「力強くこの一年をスタートした後、当社の業績は明確に、かつ大きく改善しました」とコメントしました。グループ全体の業績は経済危機前の2008年の数字を上回ることができました。エンゲルは「それは危機後における、目覚ましい収益の上昇です。我々は今、成長路線の真っ只中にいます」と述べ、「たとえば、昨年末に上海で操業を開始した「MATCH」生産複合体はフル稼働しています」と現状を報告しました。世界経済の回復にあわせて立ち上がったこのプラントにより、エボニックは大きく前進することができました。今年後半にはわずかながら経済に減速が予想されますが、エンゲルは楽観視しています。「現在の堅調なビジネストレンドを考えると、今年の展望に関しては年初よりもはるかに楽観的であり、予想を再び上方修正しました。」

エボニック グループは、2010年上半期で主に需要の急増により、昨年比24%増の77億9,900万ユーロまで**売上**を拡大しました(H1 2009:62億8,100万ユーロ)。**EBITDA**(金利・税金・償却前利益)は15億3,200万ユーロで、昨年比83%増となり(H1 2009:8億3,900万ユーロ)、**EBITDA マージン**は19.6%で、前年のレベルである13.4%を大きく超えました。**EBIT**(金利税引前利益)は、159%増の11億4,800万ユーロまで増加しました(H1 2009:4億4,300万ユーロ)。この増加の原動力は主として化学とエネルギー事業における順調な伸びによるものです。

1億4,300万ユーロの**経営外損失**は、主に英国内での年金及び「On Track」効率化プログラムのための費用として計上しています。継続的事業活動からの**税引前利益**は7億5,600万ユーロでした。これは2009上半期と比較して、388%増の6億100万ユーロの増加です。全体として、エボニック グループの**純利益**は5億3,000万ユーロとなり、2009年の上半期末(4300万ユーロ)よりかなり高い数値となりました。

業績の大幅な向上により、正味運転資本が増大したのにも係わらず、グループの2010年上半期の**キャッシュフロー**は1億100万増の9億1,000万ユーロとなり、さらに設備投資2億8,800万ユーロに達しました。南寧(中国)では、エボニックは製薬活

**エボニック デグサ ジャパン**  
株式会社  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

性成分のために新しい生産設備を始め、上海(中国)では、メタクリル酸の生産能力は、コーティングやカララント業界からの高い要請に応じる形で年間 25,000 トンに増やされました。さらに、医薬、ファインケミカル及び化成品用の貴金属触媒のための新しい生産設備が操業を開始しました。エボニックは、キャッシュフローから 2009 会計年度のために設備投資と 3 億 2,000 万ユーロの配当支払いの双方を実現しました。それにもかかわらず、純債務は 34 億 9,500 万ユーロであり、2009 年末時点(34 億 3,100 万ユーロ)と実質的に変わりませんでした。これは、2008 年末から 10 億 8,800 万ユーロ減少した数字です。

### 第 2 四半期における営業成績の大きな改善

エボニック グループは 2010 年第 2 四半期における高い需要と価格上昇のおかげで、第 1 四半期と比較して売上高と営業成績の双方において更なる改善をおこない、その結果経済危機に大きな影響を受けた前年の数値を大きく超えることができました。

グループの売上高は、対前年比 31% 増の 40 億 3,000 万ユーロまで増加しました(Q2 2009: 30 億 7,600 万ユーロ)。EBITDA は 55% 増の 7 億 8,800 万ユーロまで増加しました(Q2 2009: 5 億 1,000 万ユーロ)。良好なビジネストレンドのおかげで、EBIT は第 2 四半期に 87% 増加し、5 億 9,400 万ユーロまで上昇しました(Q2 2009: 3 億 1,700 万ユーロ)。全体として、純利益は 170% 増、2 億 4,000 万ユーロまで上昇しました(Q2 2009: 8,900 万ユーロ)。

### 3 事業部門すべてでの積極的展開

3 事業部門すべてが、2010 年上半期における営業成績で成功を収めることができました。

化学部門はアジアで実質的に大きな成長を遂げました。一方、ヨーロッパでは需要は目に見える形で、また北アメリカでもわずかに上向いた形となりました。全体として、売上高は 2010 年上半期には前年比 34% 増の 62 億 7,500 万ユーロとなりました(H1 2009: 46 億 7,300 万ユーロ)。これは数量の増加(25%ポイント)と販売価格の上昇(7%ポイント)によるものです。為替効果と強化範囲の変更は、各々 1%ポイント上昇に寄与しました。EBITDA は 91% 増、12 億 3,600 万ユーロにまで上昇しました(H1 2009: 6 億 4,800 万ユーロ)。EBIT は、主に需要の強い増加とこれに伴う設備稼働率の向上により、前年比 180% 増の 9 億 2,500 万ユーロまで改善しました(H1 2009: 3 億 3,000 万ユーロ)。これにより、原材料費の上昇分は、主に販売価格を上げることで相殺することができました。

エネルギー部門の売上は 13 億 2,300 万ユーロで前年と比べてもほとんど変わりませんでした(H1 2009: 13 億 3,900 万ユーロ)。EBITDA は、57% 増の、2 億 8,100 万ユーロまで上昇しました(H1 2009: 1 億 7,900 万ユーロ)。一方 EBIT は、2009 年上半期には単発性が強いいためおこなわれなかった石炭トレーディングの結果 2 億 4,000 万ユーロ

エボニック デグサ ジャパン  
株式会社  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モリス 12F

[www.evonik.jp](http://www.evonik.jp)

口となり、前年と比べ 80%上昇しました(H1 2009:1 億 3,300 万ユーロ)。加えてドイツの発電所は景気回復にともない、高い電力需要を記録しました。

**不動産部門**では、**売上高**は 2010 年上半期に 1 億 7,800 万ユーロとなり、前年に比べ 3%縮小しました(H1 2009:1 億 8,400 万ユーロ)。**EBITDA** は 8%増の 9,100 万ユーロまで上昇しました(H1 2009:8400 万ユーロ)。主に資産経営による良好な成績のため、**EBIT** は 6,700 万ユーロ、対前年値 400 万ユーロ増となりました。

### 「On Track」効率化プログラムは依然重要

「On Track」効率化プログラムは依然、順調な進捗を続けています。これは、すべての活動をまとめてエボニックの競争力の持続的改善を実現するものです。

このプログラムは、グループにおけるすべての主要なコストポジションの検討と、構造及びプロセスの分析を含みます。その狙いは、2012 年から毎年 5 億ユーロの持続的なコスト削減を成し遂げることです。「我々は将来にわたって、競争力を持てる良いポジションを確保できるように、組織的にこのプログラムを進めて行きます」と、エンゲルは強調しました。

### 2010 年度の展望は再度上方修正

2010 年上半期に経済は良好に回復しました。しかし、この状況は今年後半には多少なりとも減速すると予想されています。それでも、世界経済のわずかながらの上昇は、全体的に年内は続く予想されます。

原材料費の継続的な上昇によって弱含む可能性はありますが、上半期の業績の向上を受けてエボニックは、今年の展望に関しては年初時点に比べはるかに楽観的です。需要の増加により、グループは現在、今年の売上増加が昨年比二桁のパーセンテージ範囲内にあると予想します。全体として、EBITDA と EBIT は、昨年よりはるかに高いと予想されます。

**エボニック デグサ ジャパン  
株式会社**  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モリス 12F

[www.evonik.jp](http://www.evonik.jp)

## エボニックグループの損益計算書の抜粋

(単位 100 万ユーロ)	2010 年 第 2 四半期	2009 年 第 2 四半期	変動 (%)	2010 年 H1	2009 年 H1	変動 (%)
売上	4,030	3,076	31	7,799	6,281	24
金利・税金・償却前利益 (EBITDA)	788	510	55	1,532	839	83
金利税引前利益(EBIT)	594	317	87	1,148	443	159
営業外損益(継続事業)	-139	-34		-143	-41	
<b>=営業利益</b>	<b>455</b>	<b>283</b>	<b>61</b>	<b>1,005</b>	<b>402</b>	<b>150</b>
金融収支	-127	-116		-249	-247	
<b>=税引前利益 (継続事業)</b>	<b>328</b>	<b>167</b>	<b>96</b>	<b>756</b>	<b>155</b>	<b>388</b>
所得税前収益(非継続事業)	-6	-1		-4	-5	
<b>=税引前利益 (合計)</b>	<b>322</b>	<b>166</b>	<b>94</b>	<b>752</b>	<b>150</b>	<b>401</b>
所得税	-67	-51		-189	-78	
<b>=税引後利益</b>	<b>255</b>	<b>115</b>	<b>122</b>	<b>563</b>	<b>72</b>	<b>682</b>
少数株主持分	-15	-26		-33	-29	
<b>=純利益</b>	<b>240</b>	<b>89</b>	<b>170</b>	<b>530</b>	<b>43</b>	<b>1,133</b>

エボニック デグサ ジャパン  
株式会社  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モリス 12F

[www.evonik.jp](http://www.evonik.jp)

## 事業分野別の業績

	売上			EBITDA		
	2010年 第2四半期 (100万ユーロ)	2009年 第2四半期 (100万ユーロ)	変動(%)	2010年 第2四半期 (100万ユーロ)	2009年 第2四半期 (100万ユーロ)	変動(%)
化学	3,286	2,402	37	657	407	61
エネルギー	634	525	21	132	90	47
不動産	96	103	-7	48	44	9
その他	14	46	-70	-49	-31	-58
<b>合計</b>	<b>4,030</b>	<b>3,076</b>	<b>31</b>	<b>788</b>	<b>510</b>	<b>55</b>
	売上			EBITDA		
	2010年 H1 (100万ユーロ)	2009年 H1 (100万ユーロ)	変動(%)	2010年 H1 (100万ユーロ)	2009年 H1 (100万ユーロ)	変動(%)
化学	6,275	4,673	34	1,236	648	91
エネルギー	1,323	1,339	-1	281	179	57
不動産	178	184	-3	91	84	8
その他	23	85	-73	-76	-72	-6
<b>合計</b>	<b>7,799</b>	<b>6,281</b>	<b>24</b>	<b>1,532</b>	<b>839</b>	<b>83</b>

## エボニックグループの事業別の社員数

	2010年6月30日	2009年12月31日
化学	30,567	29,723
エネルギー	4,883	4,820
不動産	465	479
その他	2,903	3,659
<b>エボニックグループ全体</b>	<b>38,818</b>	<b>38,681</b>

## エボニック インダストリーズについて

エボニック インダストリーズはドイツのクリエイティブな産業グループです。私たちのコアビジネスであるスペシャルティケミカルでは世界的リーダーとなっています。またエボニックは無煙炭や再生可能エネルギーによる発電事業のエキスパートであり、ドイツでは最も大きな個人向け民間不動産会社のひとつです。私たちの業績は創造性・専門性・自己革新力・信頼性によって作り上げられています。

エボニック インダストリーズは世界100ヶ国以上で活動しており、2009年度は39,000人の社員を有し、総売上高は131億ユーロ、EBITDA(金利・税金・償却前利益)は20億ユーロを計上しました。

## 免責事項

このプレスリリースに記載されている見通しや期待、または将来の予測に関する記述は、既知または未知のリスクと不確実性を含む可能性があります。実際の結果や発展は事業環境の変化により異なる場合があります。エボニック インダストリーズ AGはこのリリースに含まれる見通し、期待、記述に関して、更新の義務を負いません。

**エボニック デグサ ジャパン  
株式会社**  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モノリス 12F

www.evonik.jp

(このプレスリリースは2010年8月11日にドイツで発表されたものの翻訳版です)